

# 埴町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

埴町の農業は、二つの山系に挟まれた久慈川、川上川流域の標高200m前後の平坦地と標高700mまでの山間高冷地の耕地に、水稻・畜産・野菜の複合経営により営まれている。農作物は水稻・きゅうり・トマト・いんげん等の野菜、特産物のこんにやく・花き等がある。

農家戸数の90%が兼業農家で、一戸あたりの水田面積は62aと少なく、圃場区画も小さいことから、土地利用率低く、土地利用集積も進まない状況である。また、農業者全般に高齢化が進んでおり、かつ後継者が少ない。

## 2 作物ごとの取組方針

### (1) 主食用米

適地適作の推進を図るとともに、安全・安心の米作りのため、有機栽培・特別栽培・エコファーマーによる作付けを推進する。併せて、低コスト稲作を実現するため、水稻直播栽培の普及拡大を積極的に進める。

### (2) 非主食用米

#### ア 飼料用米

畜産粗飼料等の自給率向上の動きから、飼料用米の生産は増加している。産地交付金を活用し、生産性向上等の取組として専用品種の導入による収穫量向上、低コスト生産栽培技術の確立、地元畜産農家との需給契約、収穫体制の整備を図る。

#### イ 米粉用米

生産者と実需者との連携強化、拡大に向け推進を図る。

#### ウ WCS用稲

水稻を生産しながら生産調整可能なため、農地の有効活用として推進を図る。また、産地交付金を活用し収穫量向上、生産性向上等の取組に対する支援を行うことにより、生産拡大を推進する。

#### エ 加工用米

生産者と実需者との連携強化、拡大に向け推進を図る。

#### オ 備蓄米

生産調整（地域間調整）の推進状況に応じて、営農形態を変えずに生産調整できる備蓄米へ取組を推進し、農業経営・農家所得の安定を図る。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

消費者ニーズに対応した優良品種の導入と品質向上を図り、直販等の販売をしていく。飼料用作物については耕種農家と畜産農家の連携を図り、自給体制の確立を目指していく。

(4) そば、なたね

水田の有効活用としてそば・なたねの作付を推進し、産地交付金を活用して将来的に優良品種の導入と品質向上を図り、直販等の販売をしていく。

(5) 地域振興作物（いちご、きゅうり、トマト）

本町の主要品目であるいちご、きゅうり・トマトにおいて産地交付金を活用して生産拡大を図る。また、出荷時期が集中している現状から、長期出荷のための施設化を促進し、年間を通して安定した生産・出荷体制の確立を目指す。

(6) 野菜

出荷時期が集中している現状から、長期出荷のための施設化を促進し、年間を通して安定した生産・出荷体制の確立を目指す。

(7) 地域振興花き（ダリア、カラー）

本町は花きの生産が盛んであり、その中でも地域振興作物であるダリア・カラーについては町の花として広報等をして推進している。産地交付金を活用し、**生産拡大による経費を支援することで**生産数及び出荷量を拡大させ、さらなる振興を図る。

(8) 花き・花木

本町は花の町として宣伝しており、花き・花木を転作作物としての推進を図り、生産者数及び出荷量を拡大させ、さらなる振興を図る。

(9) 不作付地の解消

町内の荒廃した耕作放棄地を引き受けて作物生産を再開する意欲ある農業者や農業者による組織が行う再生作業の取組について、国県による各種助成措置の活用を図りながら総合的に支援する。平成 25 年度は 1ha 解消しており、平成 28 年度まで 4ha まで解消を図る。

(平成 25 年度 343ha→平成 28 年度 339ha)

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 27 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	570.2	531.3	524.9
飼料用米	8.5	22	23
米粉用米	なし	なし	1
WCS 用稲	17.7	18	19
加工用米	なし	なし	1
備蓄米	0	18	18.9
麦	2.3	3	3.2
大豆	2.2	3	3.2
飼料作物	0.1	1	1.1
そば	2.8	4	4.2
なたね	なし	なし	1
トマト	2.9	3.3	3.5
きゅうり	3.5	4	4.2
いちご	4	4.4	4.7
ダリア	1.2	2.9	3.1
カラー	0.4	0.7	0.8
その他地域振興作物	11.8	12.5	13.6
・野菜	4.2	4.4	4.7
・花き・花木	6.4	6.5	6.9
・雑穀	0.5	0.6	0.7
・果樹	0.1	0.2	0.3
・地力増進	0.4	0.5	0.6
・景観形成	0.1	0.1	0.1
・その他	0.1	0.2	0.3

#### 4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 27 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	飼料用米	生産性向上等の取組	ア	実施面積	8.5ha	22ha	23ha
1	WCS 用稲	生産性向上等の取組	ア	実施面積	17.7ha	18ha	19ha
2	そば	品質向上への取組	ア	実施面積	2.8ha	4ha	4.2ha
3	ダリア	産地化の取組	ア	作付面積	1.2ha	2.9ha	3.1ha
3	カラー	産地化の取組	ア	作付面積	0.4ha	0.7ha	0.8ha
4	トマト	産地化の取組	ア	作付面積	2.9ha	3.3ha	3.5ha
4	きゅうり	産地化の取組	ア	作付面積	3.5ha	4ha	4.2ha
4	いちご	産地化の取組	ア	作付面積	4ha	4.4ha	4.7ha

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。  
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組